

教育普及プログラムの現場運営と課題

土田 可奈

1.はじめに

新潟市歴史博物館では、教育普及プログラムを随時実施しています。教育普及プログラムとは、博物館の展示や、地域の歴史や文化を、楽しみながらより深く理解するためのプログラムです。当館では、常設展示や敷地内にある歴史的建造物の解説(ガイド)や、体験することを通して歴史や文化を理解することを目指すたいけんプログラム、その他いろいろなイベントを行っています。

これらのプログラムを実施するためには、利用者が効率よく心地よく安全に博物館を楽しむことができるように、事前の準備や打ち合わせが必要です。

今回は、たいけんプログラムと、展示解説などで対応することが多い団体見学を例に、どのように運営しているのかを紹介し、課題を考えたいと思います。

2.たいけんプログラム

■たいけんプログラムとは
当館の本館1階に、体験の広場があり

ます。体験の広場は、子どもから大人まで、楽しく遊びながら、昔の人たちの知恵や工夫に気付いたり、新潟の歴史や文化について分かりやすく学ぶことができる当博物館の教育普及事業の中心となる場所です。ここでは、ほぼ毎週末、たいけんプログラムを行っています。

たいけんプログラムは、具体的な体験を通して、歴史や文化をより身近に感じ、理解する一助とするものです。対象は小学生以上の子どもですが、他に大人向けに行うこともあります。

現在、たいけんプログラムは年間六〇回ほど行っています。たいけんプログラムには、「まがたまづくり」や「さらさら砂絵」など定期的に行う定番のプログラム、新規のプログラム、ボランティアスタッフが主体となつて企画・実行するプログラムなどがあり、他に夏休みなどもたいけん講座や大人体験講座、企画関連のものもあります。

■プログラム「まがたまづくり」
まがたまは古代のアクセサリーで、本

ここでは、定番プログラムである「まがたまづくり」を例に、たいけんプログラムの運営について考えます。

物はヒスイなどで作られますが、このプログラムでは加工しやすいろう石を使用します。

プログラムは、導入としてまがたまについて話をした後、石に鉛筆でまがたまの形を書き、キリでひもを通す穴を開け、後は紙やすりで形がでるまで削っていきます。形が整ったら、細かい紙やすりで磨いて出来上がりです。

まがたまづくりは、たいけんのひろばボランティアを中心に行われています。一人分の材料が一つのビニール袋に詰められており、ボランティアスタッフが自主的に用意するよう、使用する道具類も一箱に収納してあります。材料を袋に詰める作業なども、月に一度設定している作業日に、



まがたまづくり

ボランティアスタッフがを行っています。

このプログラムは、ボランティアスタッフが主導で定期的に行うほか、学校団体や子ども会などの要望に応じて開催しています。

■対応スタッフの調整

まず年度のはじめにその年に開催するたいけんプログラムに応じて、ボランティアスタッフを募ります。その後、予定の変更や、調整がついて活動に参加するボランティアスタッフもいます。

団体でまがたまづくりの希望があった場合は、時間や受け入れ可能な人数などを館側と団体とで相談し、当日の予定を決定します。それをボランティアスタッフに知らせ、参加者を募ります。学校団体や子ども会などで、一度に二十〜三十人の対応をする場合は、複数のボランティアスタッフの手が必要になります。

ボランティアスタッフの都合の悪い場合は、職員が対応するように調整します。

■プログラム運営の問題と課題

まがたまづくりは、通常一時間三十分ほどかかりますが、団体の場合、滞在時間に限りがあるため、長くても一時間程度しか時間が取れません。多くの子ども

しないよう、調整が必要です。

予約していたことには、事前に観覧チケットが準備できるため入場がスムーズになる、ガイドの手配などができ効率的で充実したサービスを受けることができる、来館時間などを事前に調整して、混雑や他団体との重複を避け快適に安全に見学することができるなどの利点があります。

■下見と打ち合わせ

学校団体の場合、なるべく学校の先生方に事前の下見と打ち合わせをお願いしています。打ち合わせでは、見学の目的に沿うように、当日の対応や見学スケジュール、ガイドの有無や、ワークシートの使用についてなどを細かく打ち合わせます。また、ミュージアムシアターは一〇八人、セミナー室は八〇人が定員で、展示室で一度に案内できる人数は四〇人ほどです。人数の多い学校ではクラスごとや複数のグループに分けて、敷地や体験の広場、常設・企画展示室などを時間を区切ってうまく組み合わせ、効果的に見学・学習できるようにします。

■対応スタッフの調整

団体の希望に合わせて、案内をする学



敷地ガイド



常設ガイド

変に対応しますが、予約団体と連絡を取り合えるようにしておくこと、予約時によく確認を取ることが必要です。

また、対応スタッフが現場で直面した問題点や課題を吸い上げて、より良い博

物館活動ができるよう、情報を共有し還元していくことが大切だと思います。利用者に対して対応することの多いボランティアスタッフや受付スタッフの日誌などは、重要な情報を提供してくれています。

現在、団体対応においてボランティアスタッフの存在は欠かせません。利用者の多様な目的に対応ができるよう、またボランティアスタッフ自身の学習意欲の向上のためにも、研修を重ね情報を共有していくことも必要です。

また、学校団体へスムーズな対応ができるように、連絡を受けた職員は希望の内容を正しく理解し、当日対応する職員やボランティアスタッフに、打ち合わせの内容を適切に伝えることが重要になります。

4.おわりに

たいけんプログラムと団体での来館を例に、現場の運営について話してきました。来館者の目的にあわせた、効果的で質の高いサービスを実現するためには、事前の打合せと準備、利用者の要望を実際に対応するスタッフに確実に伝えること、来館者が博物館をより効果的に利用できるためのスキルを備えた職員やボランティアスタッフの対応が必要です。

来館者が充実した博物館活動を行うために、現場の運営は、来館者、館職員、ボランティアスタッフと、それぞれをつなぐコミュニケーションが大切だと思います。また、対応スタッフが現場で直面した問題点や課題を吸い上げて、より良い博

私たちは、一時間では完成することができないため、家で仕上げてもらおうことになり、打ち合わせの際に、このことはお話ししますが、直接個々の子どもに対応するボランティアスタッフは完成させてあげたい気持ちが強いです。時間のない場合は、穴を開けておくなど時間を短縮する工夫や、受け入れ人数を調整することなどが必要となります。

■団体の予約
当館では、来館する団体の予約を受け付けています。予約する団体には、一般団体、学校団体(小中学校など学校単位で授業の一環として来る団体)、視察(公的機関などが公的に行事の一環として来る団体)などがあります。

日時や団体名、人数、見学予定場所、昼食会場やガイドなどの対応が必要かどうかを確認します。学校団体の場合、来館時期が春と秋に集中するので、特に人数の多い学校は他の学校と重複